

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2672800147
法人名	特定非営利活動法人 水度坂友愛ホーム
事業所名	グループホーム友愛
所在地	〒610-0114 京都府城陽市市辺中垣内4番地 (電話) 0774-57-0320

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年2月19日
評価確定日	平成22年4月15日

【情報提供票より】(平成 22 年 1 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 250,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,250 円			

(4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	83 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国立病院機構南京都病院、ほうゆう病院、堀内医院、田坂歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から徒歩圏内の住宅地域にあり、デイサービスと併設して建てられています。ホームは2階にあります。利用者の方は階下のデイサービスへ遊びに行かれることが多く、毎日多くの職員やボランティア、地域の方々に見守られ安心して楽しく過ごせるよう支援されています。法人の職員に対する育成意識が高く、職員配置など働きやすい環境整備にも努め、離職はなく、そのことが利用者の方への信頼ある馴染みのケアに繋がっています。職員は利用者を家族の様に大切に思い、看取り介護に積極的に携わっています。また地域との基盤づくりも十分に確立され、認知症予防教室や介護相談会、お祭りの開催等、グループホームとしての地域の役割を果たし、今後も熱い福祉理念の展開を目指しているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は会議で話し合い、改善計画を作成して取り組んでいます。改善点に上がった「地域の協力を得た消防訓練」については、具体的な改善案を会議で検討してきました。今回の訓練では地元の消防団に協力を得る方法で、早速実践に移し、今後の発展に期待できる成果が得られています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回まではフロアリーダーが一人で作成していましたが、今回は職員で項目を分けて記入してもらい、それを法人幹部がまとめる形を取りました。職員も参加して作成したことで、それぞれで観点が違うことに気付き、日々のケアを振り返ったり、自己評価の意義を理解する良い機会となりました。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2カ月に1回、家族代表、自治会役員、民生委員、市の介護課職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員により開催されています。会議の中心を地域の方に設定し、委員長は参加される地域の方から選任して進めています。会議ではホームの現状や評価結果、家族会からの報告や希望等、様々な意見交換が成され、ケアを振り返ることのできる有意義な会議となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会が多くあり、行事などもできるだけ一緒に過ごして頂き、会話を多く持てるよう心がけています。聞かれた意見や希望には、できる限り迅速に応じるようにしています。また家族会で出された質問や要望については、ミーティングや会議で話し合い、その対応策や検討状況を回答書を提出して伝え、安心して頂けるよう配慮しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	設立前に、法人が地域の方に何度も説明会を行っており、その結果早い時期から住民の方に協力や理解が得られ、地域の中に溶け込んだ暮らしが提供されています。運営推進会議や回覧版等で頻繁に行事の誘いを受け、夏祭り、敬老会、区民運動会等に参加しています。階下のデイサービスのレクリエーションに参加することで、子供たちやボランティアの方々とも常時交流が図られています。また、毎月1回の認知症予防教室「うたのゆりかご」を開催し、地域の方に参加してもらっています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年、法人及び事業所の目標と方針を会議で話し合い、見直しています。その中には地域密着型としての方針が常に組み込まれ、ホームとしてそれらをまとめた「暖かい心 優しい手 そして笑顔」をモットーとし、皆の見えるリビングに飾ったりパンフレットに載せています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年度初めに管理者が中心になり、事業所の新しい目標と方針を取り挙げ職員で勉強会を開き、理念について確認を行っています。日々のケアについては理念に添った「笑顔の絶えない暖かいホーム」になるよう、デイサービスとの交流を図り明るい雰囲気心を心がけ、理念が反映されたサービスに全員が取り組めるよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や回覧版等で頻繁に行事の誘いを受け、夏祭り、敬老会、区民運動会等に参加しています。階下のデイサービスのレクリエーションに参加することで、子供たちやボランティアの方々とも常時交流が図られています。また、毎月1回、講師を呼んで認知症予防教室「うたのゆりかご」を開催し、地域の方に参加してもらっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員で記入し、それを幹部がまとめる形を取りました。職員も参加して作成したことで、それぞれで観点が違うことに気付き、自己評価の意義が理解できる良い機会となりました。外部評価の結果は会議で話し合い改善計画を作成し、避難訓練に地域の消防団の参加を得るなど、改善に努めています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回、家族代表、自治会役員、民生委員、市の介護課職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員により開催されています。会議ではホームの現状や評価結果、家族会からの報告や希望等、様々な意見交換が成され、ケアを振り返ることのできる有意義な会議となっています。		

グループホーム 友愛

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から認知症予防教室の委託を受けて継続的に活動しています。管理者は講習会の講師も行い、頻繁に市役所に行き来し、連携が図られています。また介護相談員が月1回訪問しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	直接話す機会を多くもつ為、利用料の振り込みを行わず、個々の利用者の金銭管理状況や健康状態等の報告が細やかに行われています。またサービス担当者会議は家族の面会時に合わせて開催し、利用者の状況説明やケアプランの同意が充分になされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多くあり、できるだけ一緒に過ごして頂き、会話を多く持てるよう心がけています。聞かれた意見や希望には、できる限り迅速に応じるようにしています。また家族会で出された質問や要望については、ミーティングや会議で話し合い、その対応策や検討状況を回答書を提出して伝えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、一人ひとりの意向や希望、アイデアを聴き取り、できるだけ希望に添うよう努めています。職員親睦会、研修体制の整備、デイサービスの職員との助け合い、十分な職員配置などにより、チームケアは円滑で、職員の離職はとんとなく、利用者へのダメージも少なくなっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外部の年間研修計画表が作成され、外部研修は案内が入ればその都度希望を募り、勤務体制の中で様々な研修に参加できる機会が確保されています。受講した研修内容は報告書を作成し、会議で勉強会として伝達研修を行い、働きながらの職員育成の体制が構築されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のデイサービスや小規模多機能の職員とは日頃から交流を図っています。交換研修は成果や意義の理解が難しく、最近では行われていませんが、他のホームからの見学や研修は積極的に受け入れ、意見や感想をもらっています。同業者の評価を通してサービスの水準の向上に取り組んでいけるように努めています。	○	以前に他法人のグループホームとの交換研修を経験され、最近では行われていないとのことでしたが、職員の日々のケアの客観的な振り返りや、ホーム理念の確認にもつながるので、今後再開を検討されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は必ず、本人と家族に見学に来てもらっています。常に入居希望者が多く、待機中は階下のデイサービスや同法人の小規模多機能施設を利用して頂くことで、自然に馴染んで頂けるような仕組みを作っています。アセスメントでは好み等を家族から情報収集し、本人に寄り添い、かかわりを多くするなどの対応で安心感を持って生活して頂けるように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に「利用者の笑顔を見たい」という思いで、ケアに携わっています。日常の家事については、最近では一緒にすることが少なくなっていますが、洗濯たたみや食器の片付け、季節の作品作りなど、できることは共に楽しむ時間を設けています。また利用者から人生談や嫉の話聞き職員が教えてもらう機会も多くあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部を用いて入居時に家族から記入してもらい、一人ひとりの好みや得意な事を把握しています。また夕方のミーティングやカンファレンスで日々利用者の言動を報告し合い、記録したものを回覧して職員で共有しています。生活リズムなど本人の意向を大切に、思いがケアに活かされるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を大切に考え、必ず面会時に担当者会議を開き、家族から介護計画について意見や希望を聞き取り入れるように努めています。それに基づき月1回の職員会議で職員の意見をまとめ、それぞれのアイデアが反映された介護計画となっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は月1回モニタリングを行い、3ヶ月に1回のアセスメントと評価をもとに3ヶ月ごとに見直しを行っています。特別な変化が生じた場合は、その都度現状に即した計画を作成し、家族に同意を頂き、職員にも確認してもらっています。計画が日々の日誌と連動するように色々な方法を模索し、計画の充実に努めています。		

グループホーム 友愛

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の通院介助や、個別の買い物、喫茶店、墓参り等の介助に対応しています。また介護相談「はんなり会」を開催したり、市の委託事業を受け、ホームを会場として提供しています。ホームを開放的にすることで、家族と利用者の交流の支援に繋がるよう配慮しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力医について説明しています。家族の希望するかかりつけ医受診も可能ですが、今のところは申し出はなく、近隣で24時間連絡体制もありターミナルも可能であることで了解して受診して頂いています。2週間に1回の往診があり、結果は医療ノートに記載され、全職員で共有できる仕組みになっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に看取り介護について同意書をもらい、状態が悪化した際に改めて家族に再確認し、医者や看護師を交えて終末期ケアについて家族と話し合いを行い方向性を定めています。ターミナルは何度か経験があり、職員間でのその都度話し合いを深めながら、方針を打ち出しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と職員は家族のように、馴染みのある親しい関係が構築されており、中でも必要以上に慣れ慣れしい言葉にならないように個々で気を配っています。個人情報については鍵のかかる事務所に保管し家族や利用者から見えないように配慮しています。	○	呼称について、その方それぞれの個性に合わせ、これまでの馴染みの呼び方や安心して頂ける呼び方で声かけしているとのことで、家族にも知って頂けるように、家族会などで話されてはいかがでしょうか。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活ペースを作っていますが、デイサービスへの参加や入浴時間、散歩など個々の希望に合わせて対応しています。就寝時間も自由ですが、デイサービスのレクリエーションはどの方も楽しみにしておられ、日中活動量が多く夜は早く休まれリズムある生活となっています。		

グループホーム 友愛

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食は、デイサービス利用者やボランティアの方々と賑やかに食事を楽しまれています。職員も同じ食卓で摂り、利用者との会話を楽しんでいます。朝夕と土日はホームの職員と利用者と一緒にメニューを考えて作り、行事の時は外食に出掛けたりしています。個々の誕生日には、全員で手作りケーキを作って誕生会を開いています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	半数の方が1階のデイサービスのお風呂で日中に入浴され、半数の方は夜の入浴希望で、夕食後7時～9時位の間でホームで入浴してもらっています。常に職員体制を整え、利用者の希望に合わせて入浴できるようにしています。入浴拒否気味の方も声のかけ方を変えるなどして、週3回は入ってもらえるよう支援しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テラスの食事や散歩に出掛けたり、買い物や小規模事業所へ遊びに行くなど楽しんで頂いています。室内では塗り絵や貼り絵等、装飾作品づくりや、裁縫、編み物、習字、ピアノなど、思い思いに趣味を楽しむ機会を作り、気晴らしの支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中の人員配置が多いので、日常的に散歩や外出の機会は多く設けられています。戸外での行事も多く開催され、初詣、花見、紅葉狩り、イルミネーション、梅まつりなど、季節の外出行事を取り入れ、戸外で楽しく過ごして頂けるよう努めています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、入り口ともに鍵はかけておらず、地域の方や家族が入りやすい雰囲気の中で閉塞感のない暮らしを提供しています。一人で階段を降りられる方にも見守りを徹底し、事故のないよう充分配慮しています。外に出たような雰囲気を感じたら、声をかけ散歩等に同行しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回デイサービスと合同で実施し、今年度より、地域の消防団にも参加してもらいました。消防車や救急車を子供たちが見に来たり、訓練の様子を新聞に載せるなど、近隣の方にも知って頂ける効果の高い取り組みになりました。		

グループホーム 友愛

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の栄養摂取状況については、毎月1回調理士がカロリー計算を行い、チェックしています。特に水分補給には気を配り、お茶タイムを設けたり、就寝時はペットボトルをベッドの横に置くようにして1日、800～1000cc摂取を目安に支援しています。また利用者の状態に応じて粥にしたり、刻み食、ミキサー食にして提供しています。またシャーベット状にしたりお茶をゼリーにしてお供してもらっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「我が家」の雰囲気づくりを意識し、季節の飾りや作品が壁に飾られています。ゆったり座れるソファがリビングと廊下に配置され、リビングを囲んで居室があり、いつでも職員と話ができる造りになっています。また換気や空調に留意し、トイレの臭気がないように、必ず排泄物は袋に密封し、屋外へ出すようにしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室のドアの表札に行事の写真が貼られ、家族が備え付けた暖簾が飾られています。居室には今まで自宅で使っていた座布団や椅子、飾られていた絵などを持ち込み、居心地良く過ごせ、個性的な居室になるよう工夫しています。		